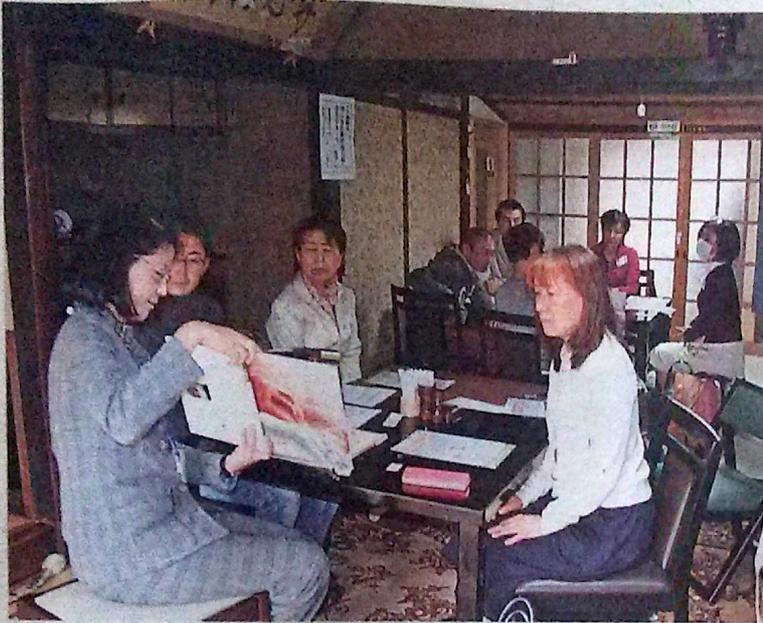


看取られたいか。「死」をタブー視せず和やかに、いろいろな旅立ちの形を学び合っている。(池本正人)

その人らしい人生の最期が迎えられるよう手助けする「看取り士」とともに、お茶を飲みながら死生観を語るカフェが岡山市で始まった。自分はどこで、誰に

人生の最期 語り合い

看取り士を養成する 女約30人が参加した。一般社団法人・日本看 最期の場面を想像しや取り士会(岡山市北区 すいよう、6人の看取り横井上)などでつくる 士たちがドキュメンタリー「カフェ看取り」との 写真絵本を開き、在実行委が主催。吉備津 宅での看取り物語を朗彦神社に近い古民家カ 誰の発言も否定せず、フェ(同一宮)を借り 尊重すること▽カウンセテ今年3月に初開催。 リンクや悲嘆を癒やす場4月12日の第2回は若 ではなく、希望を話すこ者から高齢者までの男 となどのルールを周知



写真絵本で死について学び、語り合うカフェ参加者たち。4月12日、岡山市北区一宮

「死」タブー視せず 多様な旅立ち学ぶ

し、5、6人ずつのテーブルに分かれて語り合い始めた。看取り士会の柴田久美子代表(63)は島根県の離島で携わった看取り実践

旅立つ場所については「登山が好き。雲海を見ながら逝きたい」「緑い港」は「最期の時はよいっぱいの森の中がいい」。心と魂が引き継がれ、思延命治療についても「チユープにつながることを楽しんで迎えられると思なく、自然のままが良かった」と明るい表情だった。参加者はケーキとた。

飲み物を味わい、順番に希望を口にした。父母を看取った体験や、自分が大病をした時の思いを語る人もいた。

自宅出産する産婦やホスピスを訪ねてライア(たて琴)を即興演奏している藤本美智子さん。岡山市中区倉益は「生ていきたい」と話していた。また、時におめでとるとる。

言われるように、(人生)の卒業も祝ってほしい。日に開催予定。茶菓子代が必要。問い合わせは実行委(086-364-4400)。

ズーム

看取り士 人生の最終段階を迎えた人に寄り添い、望む最期を実現できるように支援する。医療・介護保険の枠外で利用契約を結び、看取り

や介護の専門知識を提供する。日本看取り士会は6日間の養成講座の修了者を看取り士と認定。3月末で全国123人(県内10人)が看取り士となった。

の枠外で利用契約を結び、看取り

看取り士となった。